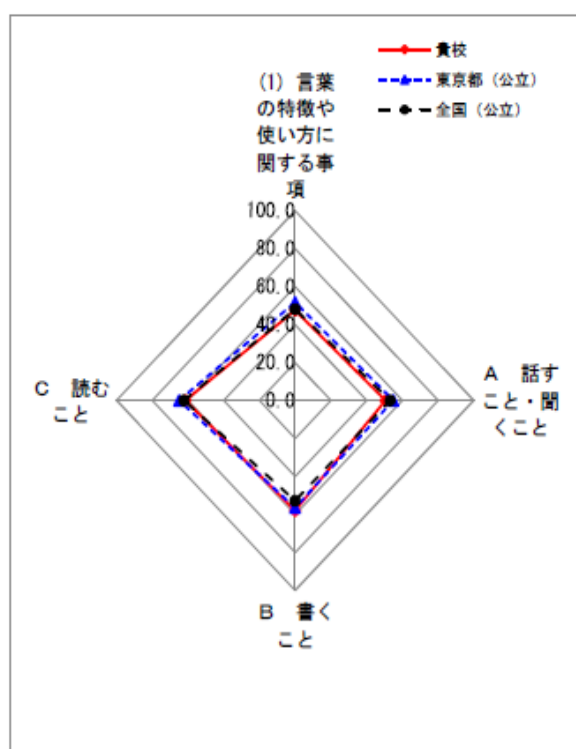


【全国学力・学習状況調査の分析】 国語

全国の分析結果では、①目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題が見られた。②自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

⇒文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要である。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校は、都および全国と比べて、全体の正答率で大きな差はない。「思考・判断・表現」における「話すこと・聞くこと」「読むこと」がやや低い結果となった。

「話すこと・聞くこと」では、とくに「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫すること」や「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」に課題が見られた。

「読むこと」では、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること」に課題が見られた。

また、語句の意味を正しく捉える問題の正答率もやや低かった。

一方、「書くこと」の「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること」については、やや高い結果となった。

⇒文章の構成や展開を捉えて読んだり、相手に伝わりやすい話の構成や論理の展開を工夫して伝える力の育成が必要である。そのために、各段落の役割や関係性を捉え、主張や意見がどのような根拠に基づき、どう組み立てられているかを読み取る学習活動を充実させていきたい。目的に応じた意見を明確にした上で、文章や話の構成や展開の工夫を、自分の考えを書いたり、発表したり、話し合い活動の場面で活用できるよう指導していきたい。

資料や機器の効果的な活用については、生徒同士で発表を見合う場面を多く設定し、学び合いながら活用能力を高めていきたい。

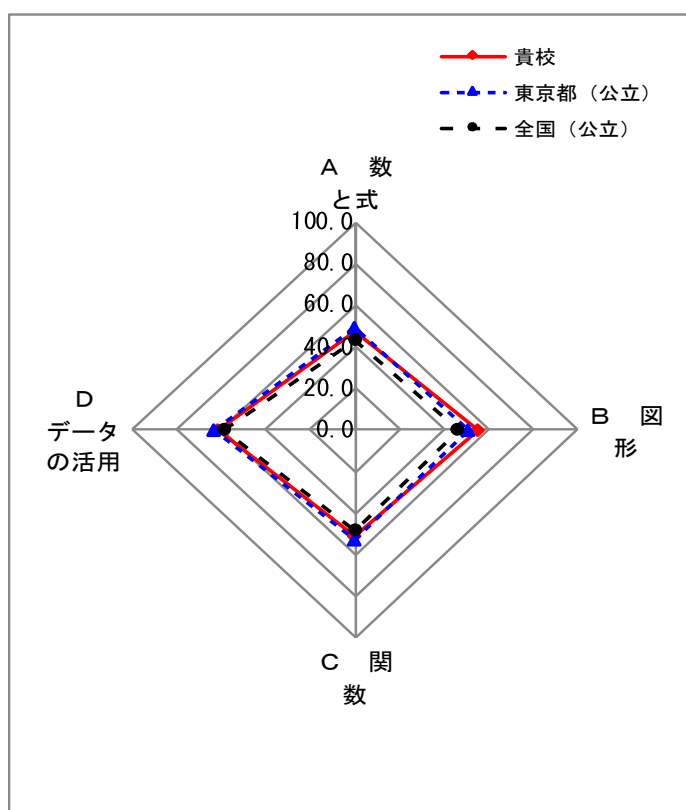
【全国学力・学習状況調査の分析】 数学

全国の分析結果では、①相対度数や数量を文字を用いた表し方について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られた。②複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

⇒日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要。また、データの活用については、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせることが重要である。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞

本校は、全体の正答率では東京都と同率で、全国と比較するとすべての項目が上回っている。しかし、データの活用領域は2.0ポイント、知識・技能の観点に関する問題は1.4ポイント東京都より低い結果となっている。また、記述式における問題形式において無回答率が東京都より7.6ポイント低く、数学的な表現を用いて説明することや筋道を立てて考え、証明することに課題が見られた。



⇒複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することや、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明するなどの言語活動を取り入れる。また対話的な学びの場を工夫し、思考をまとめたり、発表したり、表現したりする機会を増やすことで、知識・技能を高めていく必要がある。

【全国学力・学習状況調査の分析】 理科

本校では、①科学的に探究する力に課題が見られる一方、②全国と比較して理科における知識・技能は定着している傾向が見られた。

①まず、科学的に探究する力の例として学習指導要領では「比較することで問題を見出したり、既習の内容などに関連付けて根拠を示すことで課題の解決につなげたり、原因と結果の関係といった観点から探究の過程を振り返ったりすること」が挙げられており、今回の学力調査においては2(1)に注目する。

本問題では実験から得られた考察をより確かなものにするための実験方法の選択と、考察が正しいとしたときに選択した実験方法で得られるはずの実験結果の予測ができるか問われていた。本校の正答率は18.3%であり、東京都(14.9%)、全国(14.0%)と比較すると高いが、2割以下にとどまっていた。このことから、科学的に探究する力の中でも、①根拠を示すことで課題の解決につなげる力②原因と結果の関係といった観点から探究の過程を振り返ったりする力に課題があると考えられる。これらの力を身につけるために、実験で明らかにしたいことを明確にし、それを達成できるような実験方法を生徒が考える活動を取り入れることが有効である。

	正答率			無解答率		
	本校	東京都(公立)	全国(公立)	本校	東京都(公立)	全国(公立)
2(1)	18.3	14.9	14.0	0.6	1.8	1.9

②本校では、知識・技能の観点における問題の正答率が、東京都、全国と比較すると高い傾向にある。しかし、1(4)「生物1から生物4までの動画を見て呼吸を行う生物をすべて選択する」のように正解がひとつではなく、いくつかの選択肢からあてはまるものをすべて選択しなくてはならないような問題の正答率が、26.2%となっており、東京都(31.3%)、全国(29.7%)を下回ってしまっている。

理科における知識の育成とは、自然の事物・現象の性質や規則性、科学の基本的な概念(エネルギー、粒子など)を理解し、定着させることである。

1(4)では、「呼吸」がただ酸素と二酸化炭素のガス交換というだけにとどまらず、有機物からエネルギーを作り出すという細胞の活動であることを理解し、すべての生物が呼吸を行っているという認識を持たせなければならない。

これまでのように、繰り返しの小テストなどで知識の定着をはかりながら、その知識を具体的な思考や行動に結びつけるための材料にできるように知識どうしを関連付けたり、概念化して新しい考えを作り出したりできるような授業づくりを目指す。